

**応急仮設住宅周辺環境調査  
(2012年7月)  
～報告書～**

**2012年8月31日**

**岩手県復興局生活再建課  
特定非営利活動法人いわて連携復興センター**

## ○実施概要

### ○実施目的

応急仮設住宅にお住まいの世帯ごとの皆様の生活の状況を調査し、応急仮設住宅における生活課題を明らかにし、改善につなげることを目的とする。

### ○実施枠組

<実施主体> 岩手県復興局生活再建課 特定非営利活動法人いわて連携復興センター

<協力> 実施市町村

<実施支援> 日本財団 一般社団法人RCF災害支援チーム

### ○実施スケジュール

2012年6月21日～29日 調査票の配布(関係団体・支援員事業との連携)

2012年7月12日まで 調査票の回収

2012年8月下旬 調査報告書(第1案)作成終了

### ○対象

宮古市、山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市 各仮設住宅の5割程度へ配布(無作為)

※仮設団地の戸数を考慮し、全仮設住宅団地を対象にした2段階無作為抽出

仮設支援員、支援団体等による配布と郵送による回収

### ○回収数

市町村名	団地数	戸数	配布数	抽出率	回収数	回収率
宮古	62	2,010	1128	56%	486	43%
山田	49	1,990	1047	53%	508	49%
大槌	48	2,146	1053	49%	549	52%
釜石	50	3,164	1241	39%	773	62%
大船渡	37	1,811	771	43%	428	56%
陸前高田	53	2,168	1122	52%	653	58%
総計	299	13,289	6,362	48%	3,397	53%

## ○調査結果要約(キーメッセージ)

---

### ○集会所の利用頻度と生活満足度の相関

- ・集会所・談話室を利用している人ほど、支援頻度・満足度、生活満足度、施設への満足度等も高い(調査結果6・7)
- ・多く利用している人ほど、団地内での会話の頻度、プライベートな問題の団地内での相談割合が高い(調査結果8)

### ○生活への不安・課題の解決

- ・生活への安心感において、47.3%の方が不安を感じている(調査結果11)
- ・仮設団地内の施設・環境への満足度においては、47.1%が不便を感じている(調査結果12)

### ○人とのつながり

- ・70代以上女性の44.3%が単身世帯であり、60代以上の世帯の半数以上は、単身もしくは配偶者のみである(調査結果2)
- ・全体では44.8%が団地内でほぼ毎日会話をしており、その割合は、女性、高齢であるほど割合が高い(調査結果13)
- ・単身者のうち、14.5%は団地内においても会話をしていない(調査結果13)
- ・男性は約4割がプライベートな相談をできる人がいない(調査結果14)

### ○就業状況

- ・正社員の割合は、30代以下男性(65.8%)が最も高い(調査結果16)
- ・30代以下の女性の33.7%、40代・50代女性の35.5%が無職(調査結果16)
- ・今後の就業に向け、60歳未満で無職のうち、57.3%が「何もしていない」と回答している(調査結果16)
- ・50代以下の無職、期限付き社員は、生活に不安を感じている割合が高い(調査結果11)
- ・期限付き社員、パート、無職では、住居の確保について「何もしていない」割合が50%を超えている(調査結果15)
- ・現在の居住市町村に住み続けたいと考える割合は漁家・農家、自営業が60%を超えている(調査結果17)

### ○生活の見通し

- ・全体の49.7%が住居の確保についてまだ何も活動を始められていない(調査結果15)
- ・全体の20.1%は、その市町村に住み続けるかどうか「まだわからない」と回答(調査結果17)
- ・継続的な居住意向がある人は集会所利用頻度やイベント参加率、団地内会話頻度、生活安心度が高い(調査結果18)

### ○15戸以下の団地特性

- ・15戸未満は談話室がない団地も多く、集会所・談話室の頻度、満足度とも低い(調査結果10)
- ・15戸未満の団地では、悩みは保健師等の専門家に相談している割合が高い(調査結果14)

# ○調査結果1(基本属性:市町村別構成)

今回の調査対象における、各市町村の年代別分布および、団地の規模の分布は以下のとおりである。

年代別分布	宮古		山田		大槌		釜石		大船渡		陸前高田		総計	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
10代	1	0.2%	-	0.0%	-	0.0%	-	0.0%	-	0.0%	-	0.0%	1	0.0%
20代	11	2.3%	8	1.6%	9	1.6%	16	2.1%	7	1.6%	22	3.4%	73	2.1%
30代	41	8.4%	38	7.5%	43	7.8%	58	7.5%	27	6.3%	55	8.4%	262	7.7%
40代	75	15.4%	53	10.4%	73	13.3%	91	11.8%	48	11.2%	92	14.1%	432	12.7%
50代	93	19.1%	94	18.5%	93	16.9%	117	15.2%	74	17.3%	123	18.8%	594	17.5%
60代	126	25.9%	129	25.4%	144	26.2%	185	24.0%	119	27.8%	154	23.6%	857	25.2%
70代	131	26.9%	184	36.2%	177	32.2%	281	36.4%	149	34.8%	196	30.0%	1118	32.9%
無回答	9	1.8%	2	0.4%	10	1.8%	24	3.1%	4	0.9%	11	1.7%	60	1.7%
総計	487		508		549		772		428		653		3397	

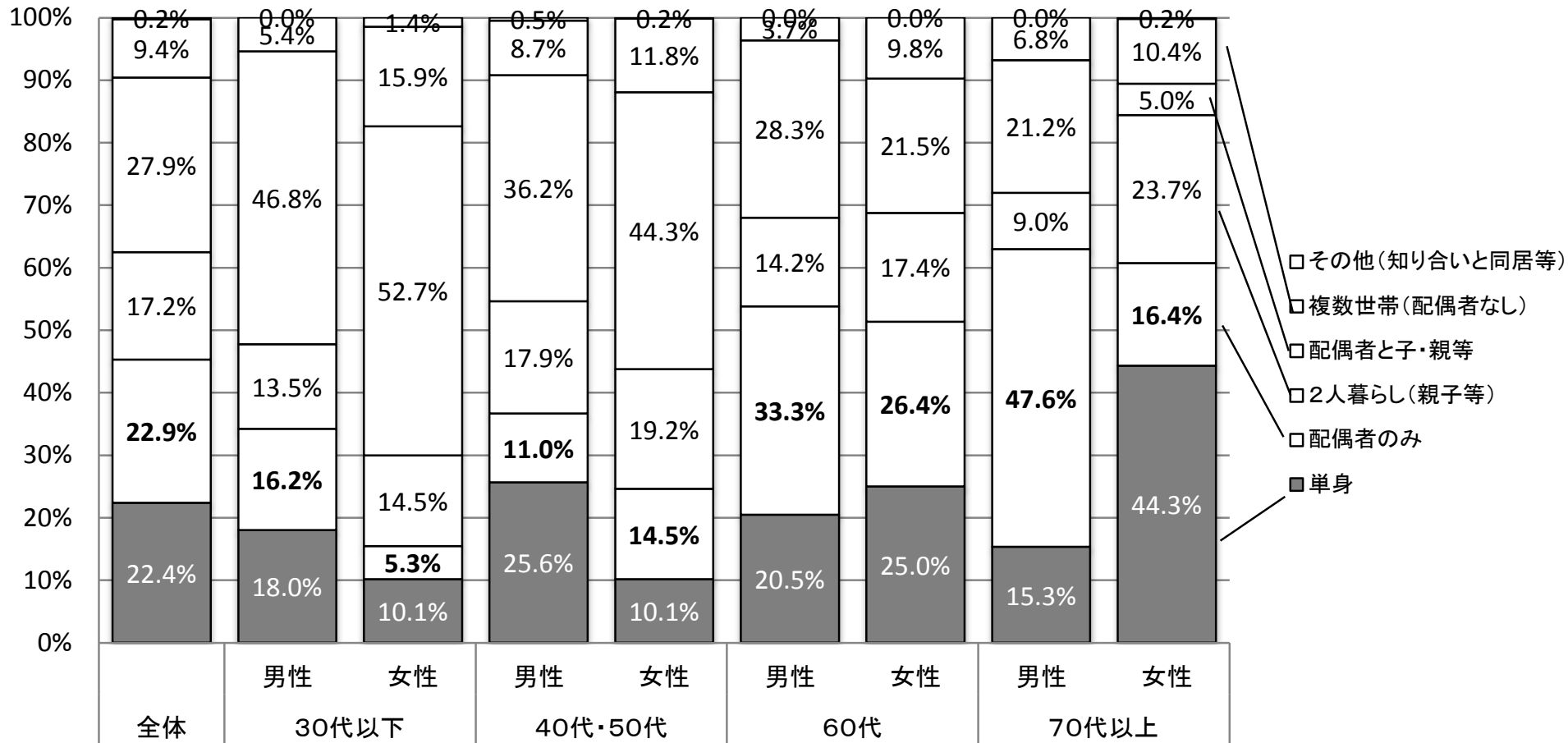
仮設住宅団地戸数	宮古		山田		大槌		釜石		大船渡		陸前高田		総計	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
15戸未満	103	21.1%	52	10.2%	45	8.2%	47	6.1%	54	12.6%	58	8.9%	359	10.6%
15戸～29戸	157	32.2%	172	33.9%	136	24.8%	121	15.7%	86	20.1%	213	32.6%	885	26.1%
30戸～49戸	133	27.3%	88	17.3%	136	24.8%	134	17.4%	35	8.2%	152	23.3%	678	20.0%
50戸～80戸	18	3.7%	98	19.3%	108	19.7%	75	9.7%	112	26.2%	79	12.1%	490	14.4%
80戸～119戸	40	8.2%	44	8.7%	80	14.6%	146	18.9%	48	11.2%	96	14.7%	454	13.4%
120戸以上	36	7.4%	54	10.6%	44	8.0%	249	32.3%	93	21.7%	55	8.4%	531	15.6%
総計	487		508		549		772		428		653		3397	

## ○調査結果2（基本属性：世帯構成）

世帯の家族構成について質問した。

年代別の世帯構成では、70代以上の女性の44.3%が単身での生活であり、また、60代以上は、半数を超える世帯が単身もしくは、配偶者のみとなっている。

### 年代・性別ごとの世帯構成

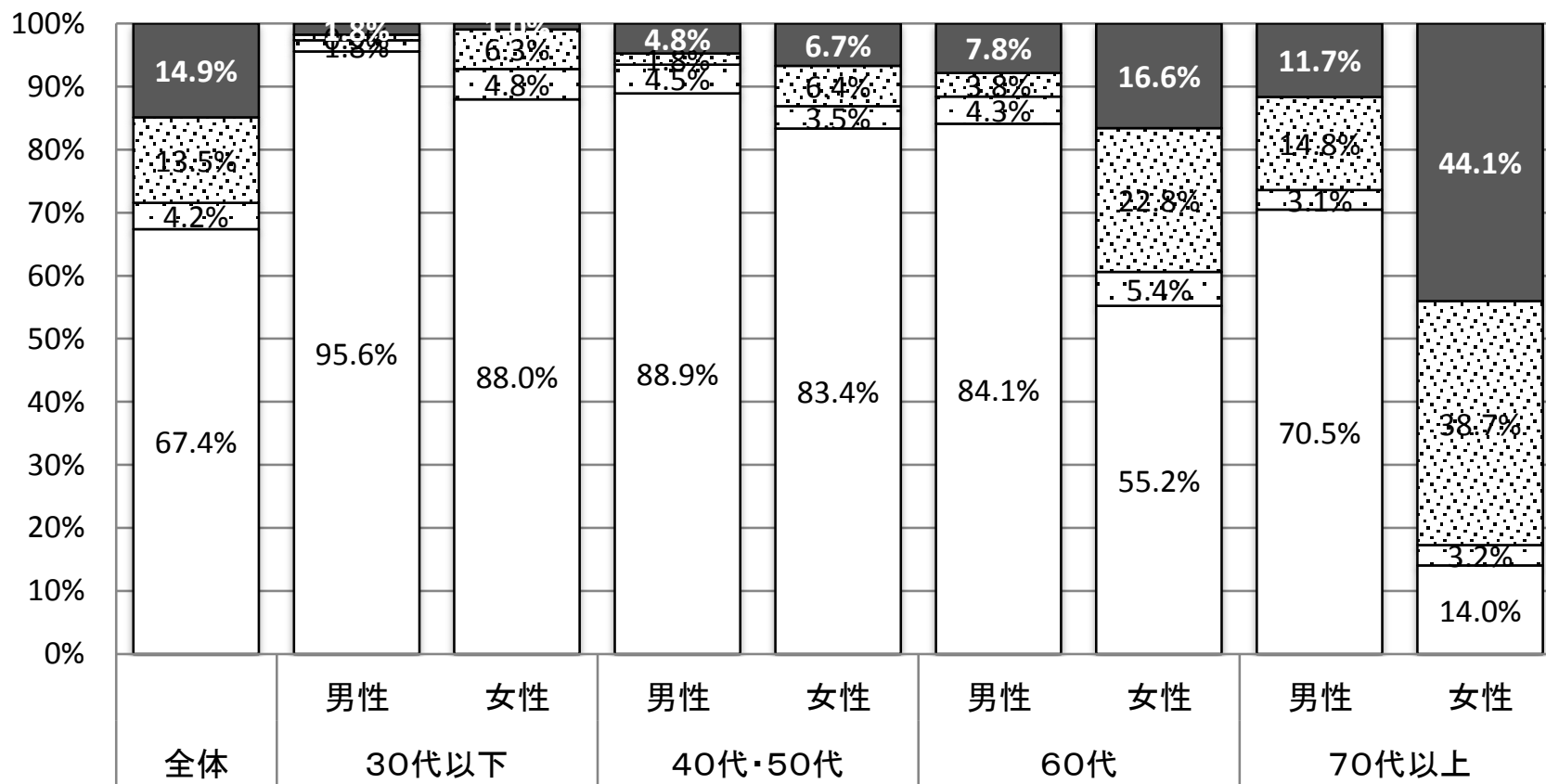


## ○調査結果3(生活環境:免許の有無)

免許の有無および、送迎者の有無について質問した。

70代以上の女性は82.8%が免許を持っておらず、44.1%が送迎をしてくれる人がいない。50代以下および60代男性は、80%以上が自家用車を保有している。

### 年代・性別ごとの免許の有無



□免許あり自家用車あり □免許ある自家用車なし □免許なし送迎者あり ■免許なし送迎者なし

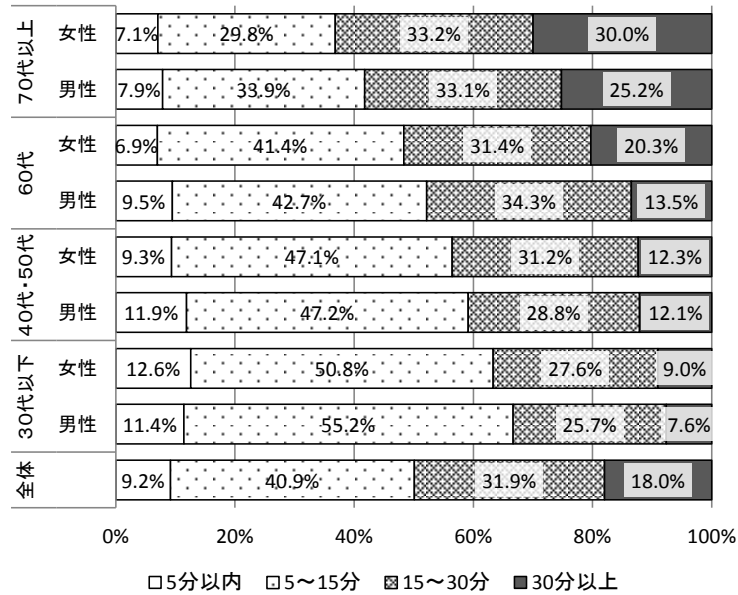
# ○調査結果4(生活環境:主要施設までの所要時間)

普段利用している店舗、病院までの所要時間について質問した。

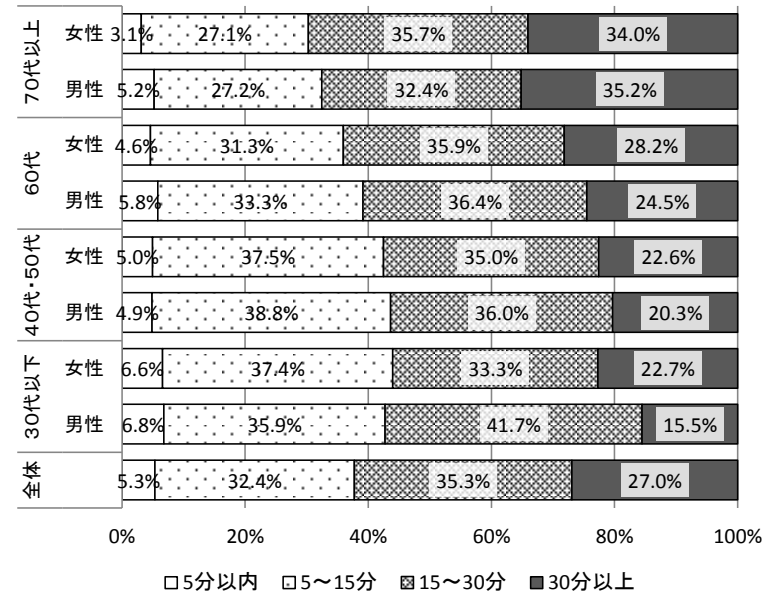
所要時間においては、免許の保有率の低い、70代以上の女性が最も時間がかかっている。

前回調査との比較を行うと、回答者全体で、生鮮食料品の購入に要する時間が30分以上かかる人の割合が減少しているとともに、5分未満の割合が増えている。また、通院時間の比較では、前回調査と大きな差は認められなかった。

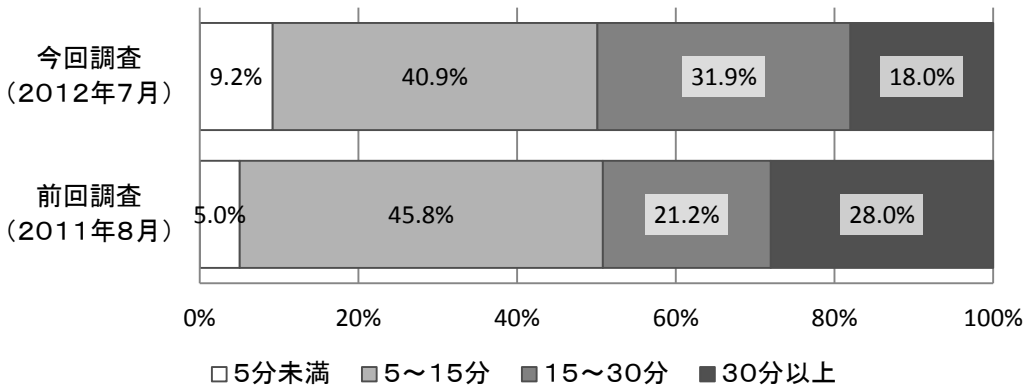
### 日用品を購入するための移動時間



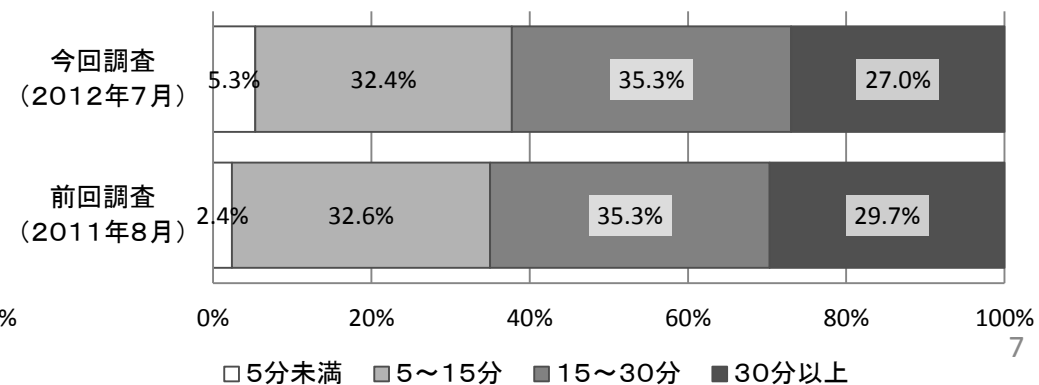
### 病院へ行くための移動時間



### 生鮮食料品を買うための移動時間



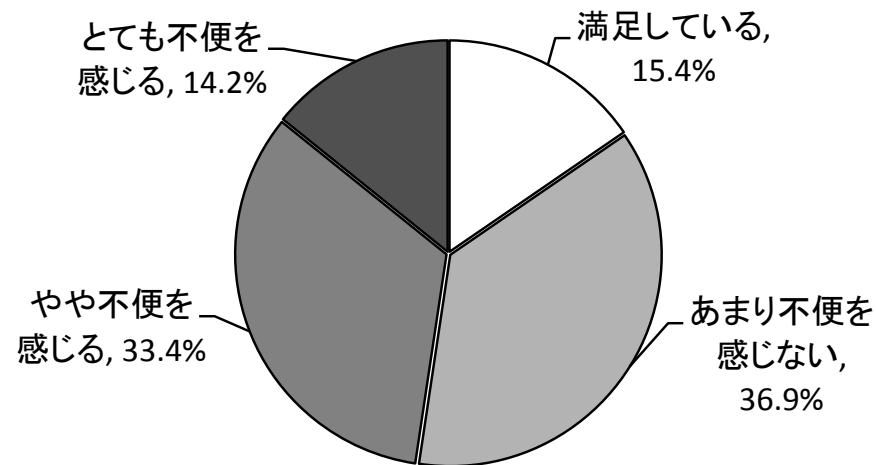
### 通院に要する移動時間



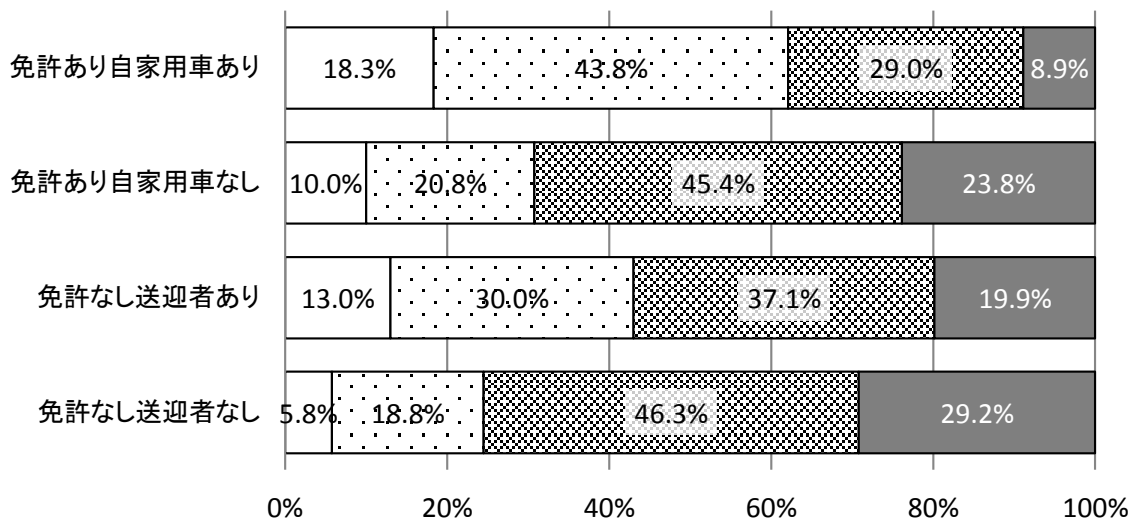
## ○調査結果5（生活環境：外出満足度）

現在の外出状況についての満足度を質問した。  
 全体では、満足している・あまり不便を感じていないあわせ、53%と半数を超えた。  
 しかし、70代の女性は、免許を持つ割合が低いこともあり、外出満足度は低い（やや不便42.3%、とても不便22.4%）。  
 また、免許があっても自家用車がない場合は、送迎者がいる場合より、外出に関しての満足度が低い。

### 外出に関する満足度

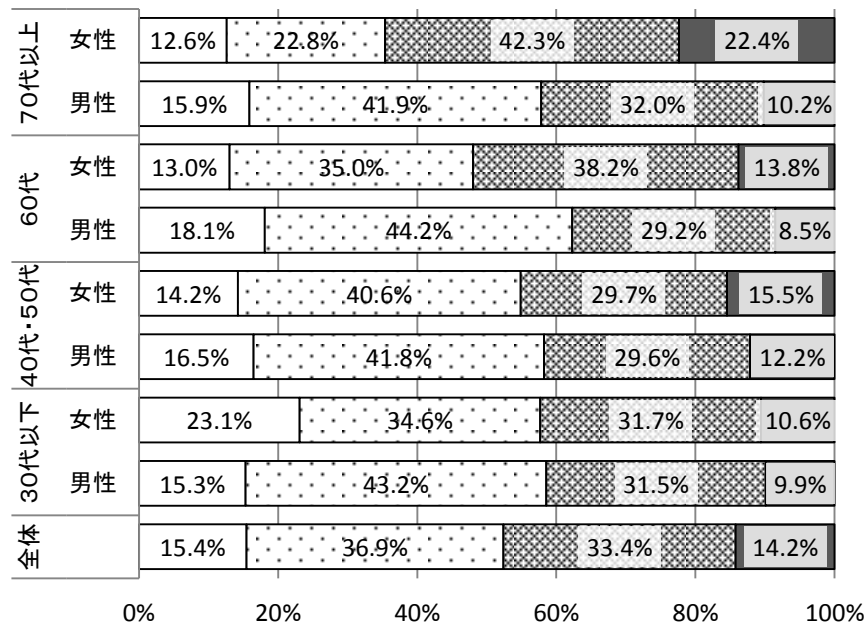


### 外出満足度（免許および送迎者の有無）



□満足している □あまり不便を感じない ▨やや不便を感じる ■とても不便を感じる

### 外出満足度（性・年代別）



□満足している □あまり不便を感じない  
 ▨やや不便を感じる ■とても不便を感じる



## ○調査結果6ー①（コミュニティ:集会所・談話室の利用頻度および満足度）

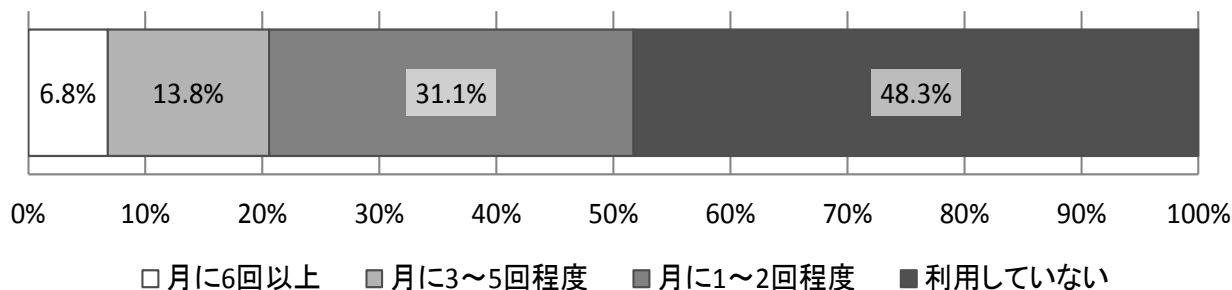
仮設団地内の集会所・談話室の利用頻度と満足度について質問した。

全体の51.7%が月1回以上、さらに全体の20.6%はほぼ週1回以上、集会所、談話室を利用している。

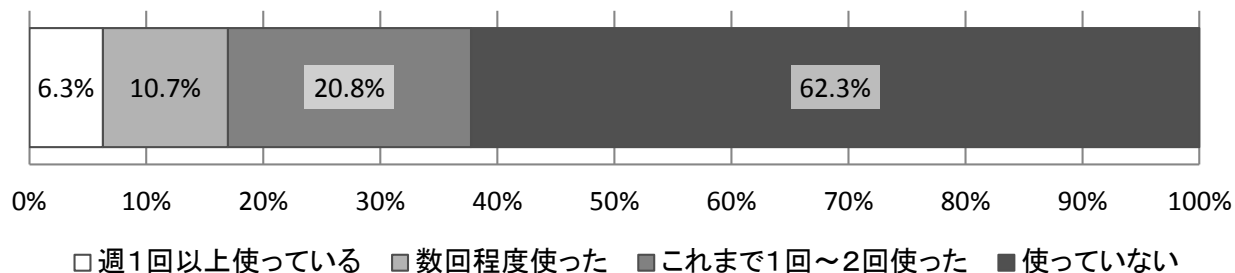
前年度の結果と比較すると、週1回以上利用している割合が増加しており、また利用していない割合は減少している。

集会所・談話室の満足度を質問すると、約6割が満足（満足している、とても満足している）と回答している。

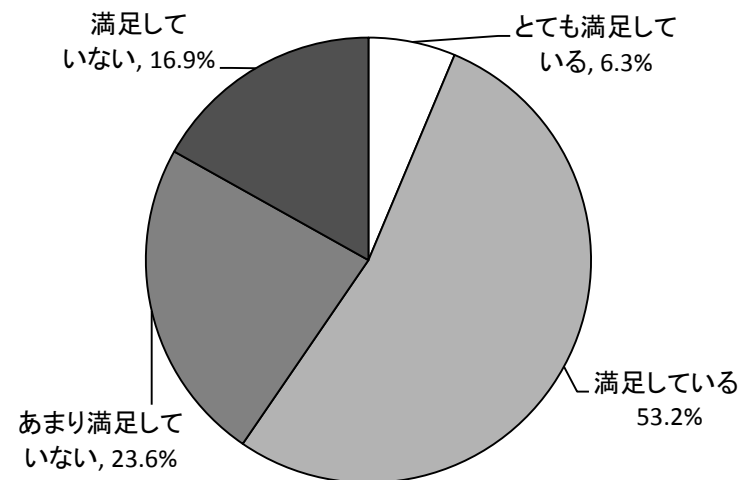
### 集会所・談話室の利用頻度



### 前回調査(2011年8月) 集会所・談話室の利用頻度

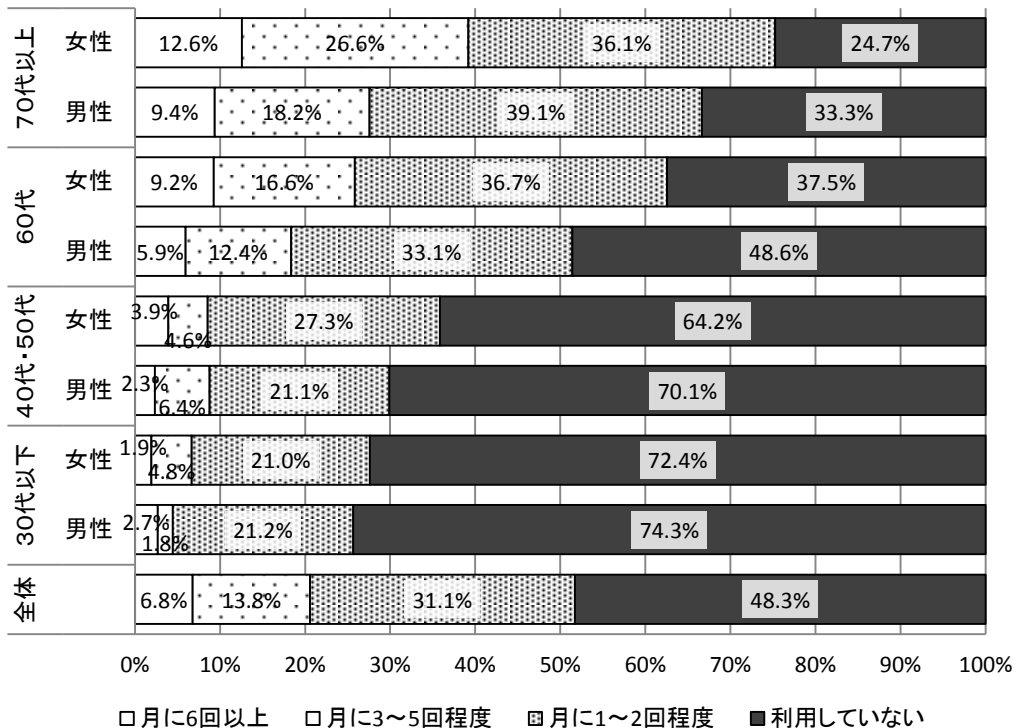


### 集会所・談話室の利用満足度

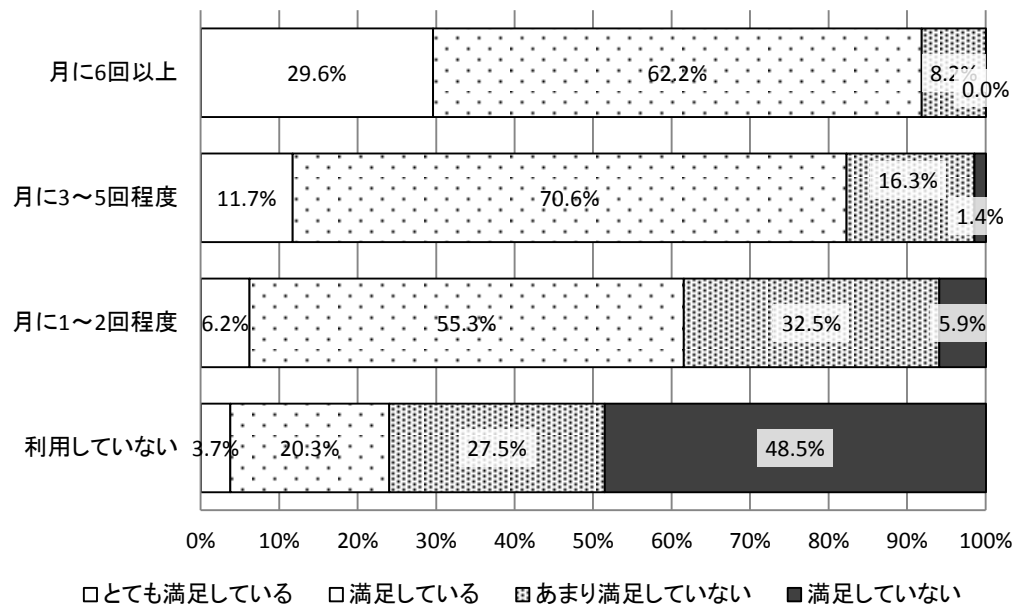


# ○調査結果6-② (コミュニティ:集会所・談話室の利用頻度および満足度)

### 集会所・談話室利用頻度(性・年代別)



### 集会所・談話室利用頻度と利用満足度の関係



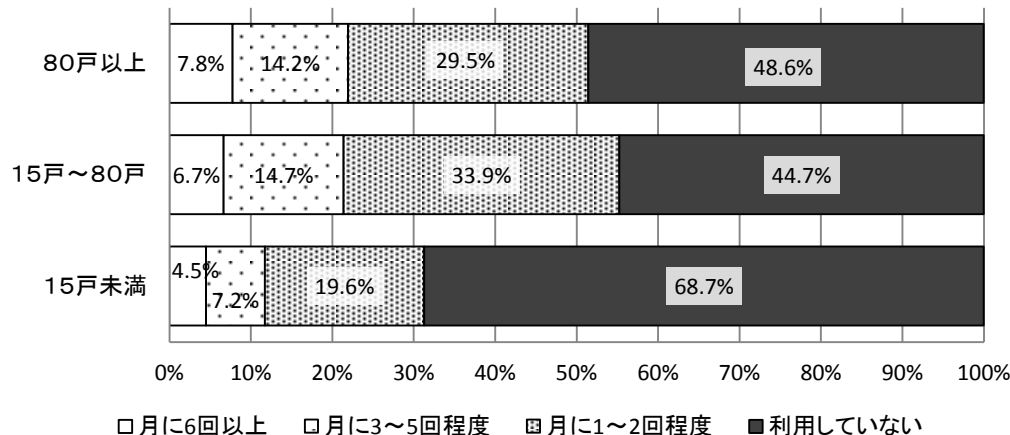
集会所・談話室の利用頻度、満足度を性・年代別に整理した。

利用頻度は、年齢が高まるほど、また、女性は、男性よりも利用頻度が高い。

さらに、利用頻度と相関し、利用満足度は相関傾向にあり、利用頻度が高いほど、満足度も高い。

また、戸数で見ると15戸未満は談話室がない団地も多いことも影響し、利用頻度が低くなっている。

### 集会所・談話室利用頻度(戸数別)

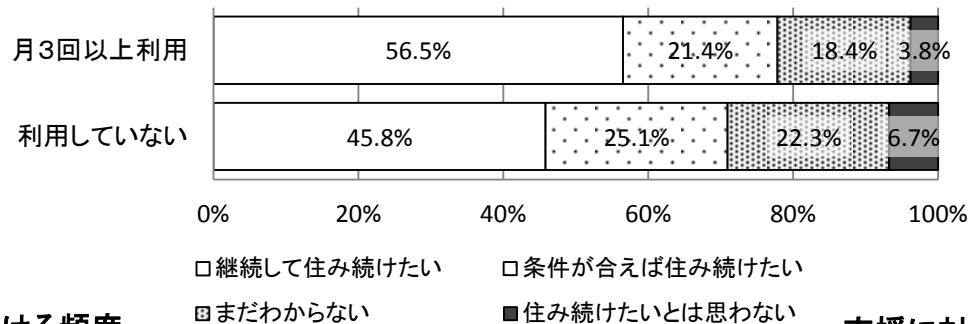


# ○調査結果7（コミュニティ:集会所・談話室の利用者と各種生活満足度との関連）

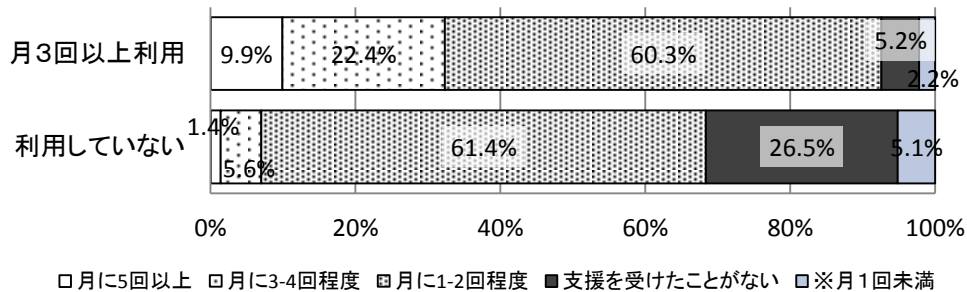
集会所・談話室の利用状況と他のコミュニティに関連する指標の関係を整理した。

集会所・談話室を利用している人ほど、支援を受ける頻度、満足度が高い。また、これらの人は、生活満足度、施設への満足度、将来の地元への居留意向も高く、コミュニティ施設の活用が、生活全般の満足度との関係があることがうかがえる。

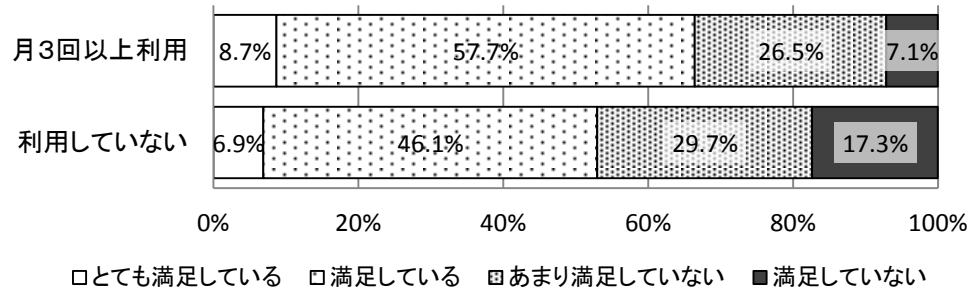
### 将来の地元への居住希望



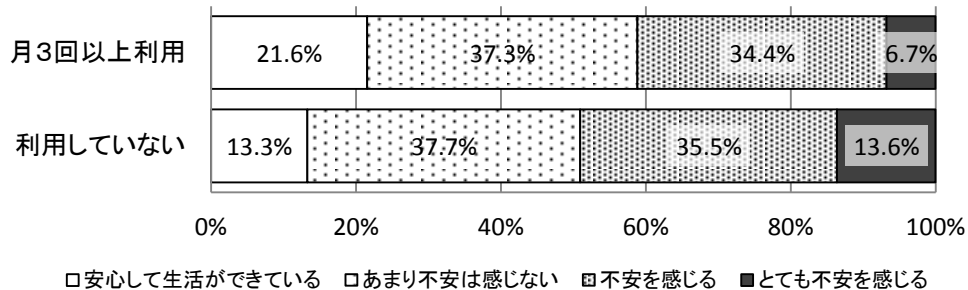
### 支援を受ける頻度



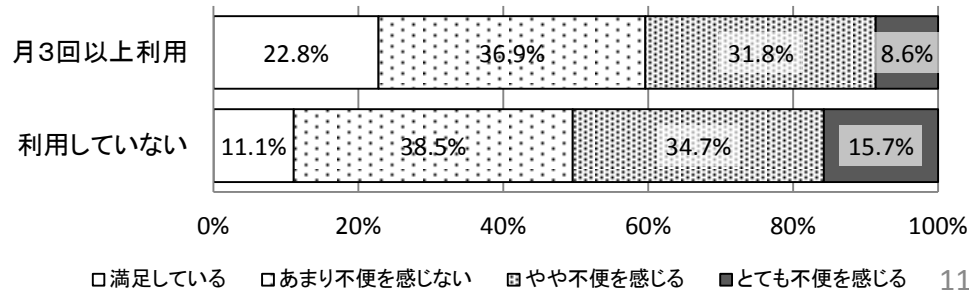
### 支援に対する満足度



### 生活安心度



### 仮設内の施設・環境満足度

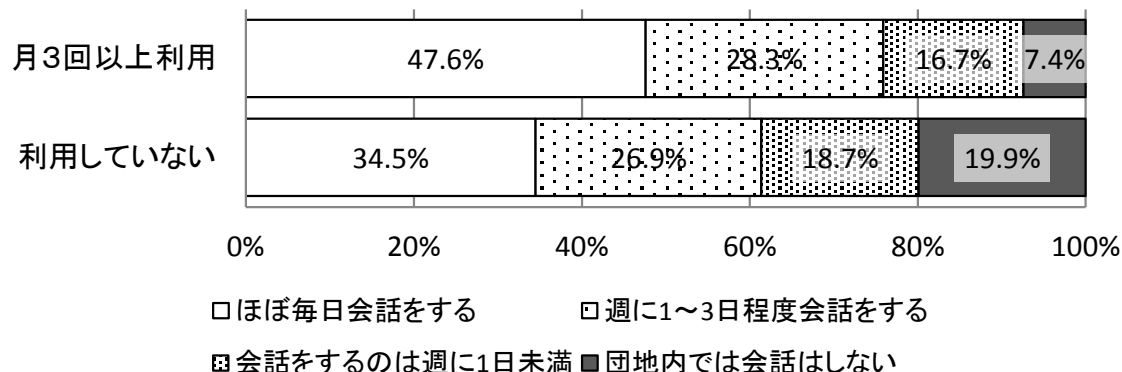


## ○調査結果8（コミュニティ：集会所・談話室の利用頻度と会話頻度・悩み相談の関係）

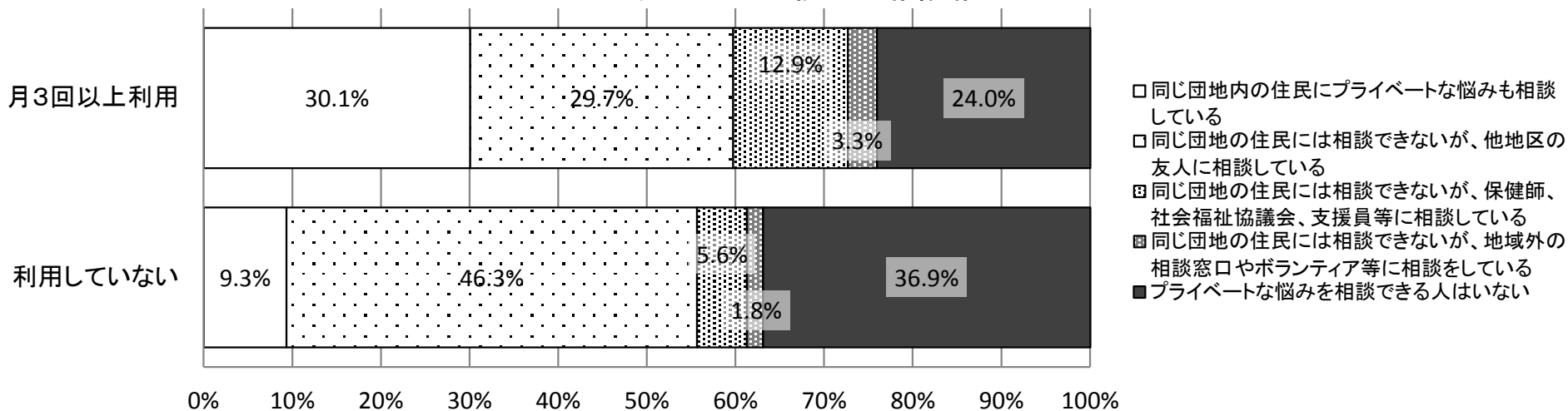
集会所・談話室の利用状況と対人関係に関連する指標の関係を整理した。

団地内での会話の頻度においても集会所利用者は高く、またプライベートの相談相手も頻度が高い人は団地内での相談割合が高い。一方、集会所・談話室の利用をしていない方の36.9%はプライベートの悩みを相談できる人がいない。

### 団地内の会話頻度



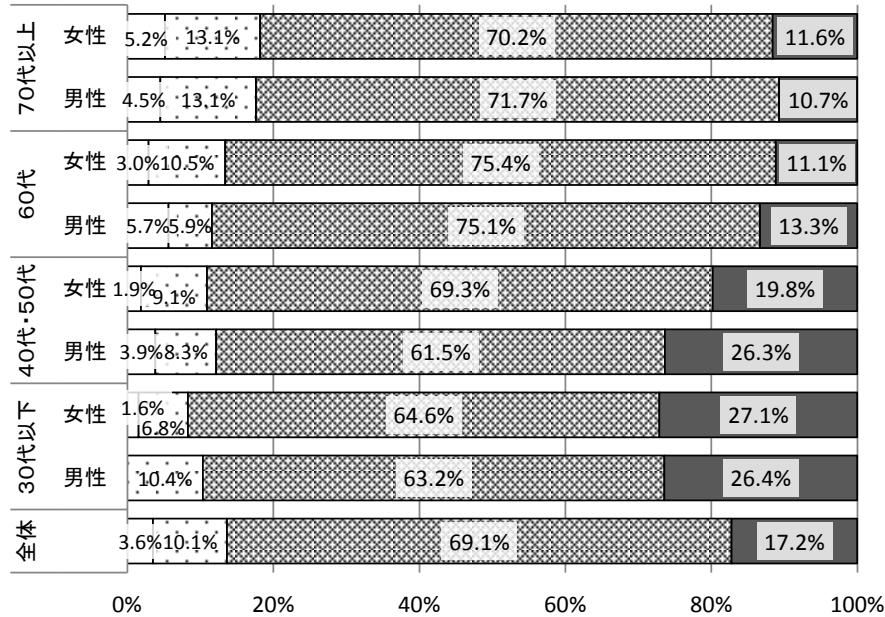
### プライベートな悩みの相談相手



# ○調査結果9 (コミュニティ:外部支援の頻度・満足度)

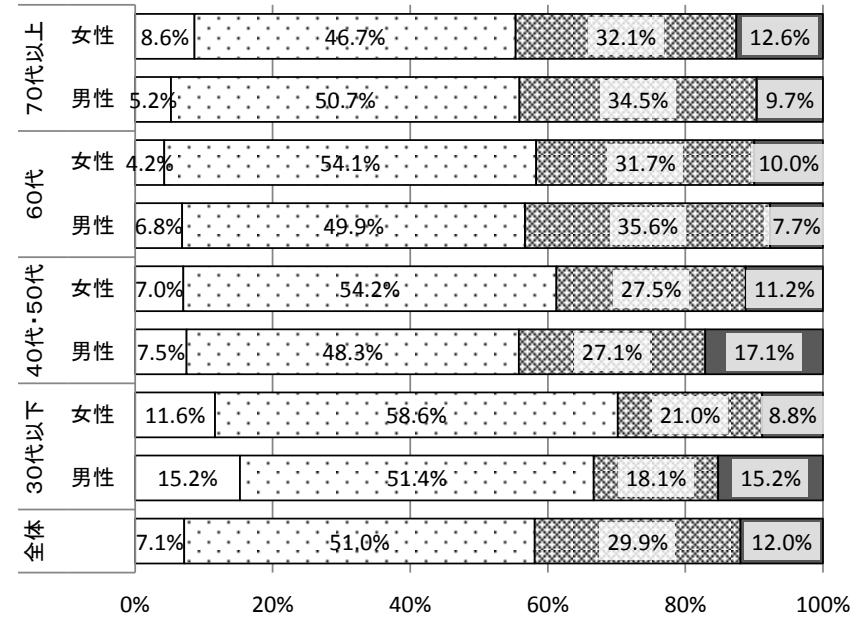
仮設団地の外部の民間機関・支援団体(行政支援を除く)からの支援の頻度、満足度について質問した。  
 30代は支援頻度は高くないが、支援への満足度は高い。反対に、高齢者は、相対的に、支援を受ける頻度は高いが、満足度は低い傾向にある。また、15戸未満の団地は、支援頻度が低い状況である。

支援を受ける頻度



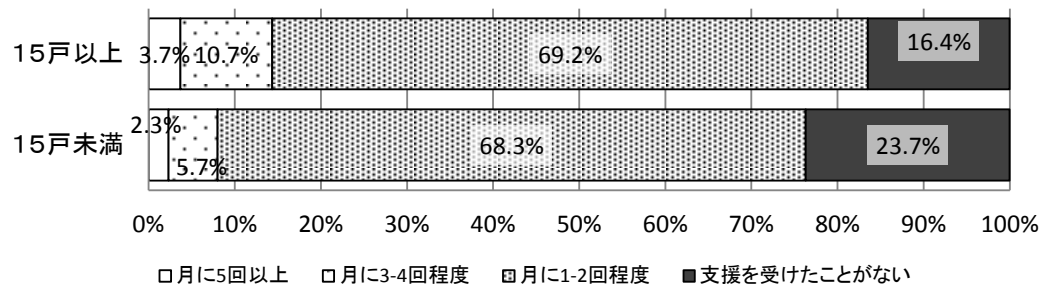
□月に5回以上 □月に3-4回程度 ▨月に1-2回程度 ■支援を受けたことがない

支援満足度



□とても満足している □満足している ▨あまり満足していない ■満足していない

支援を受ける頻度



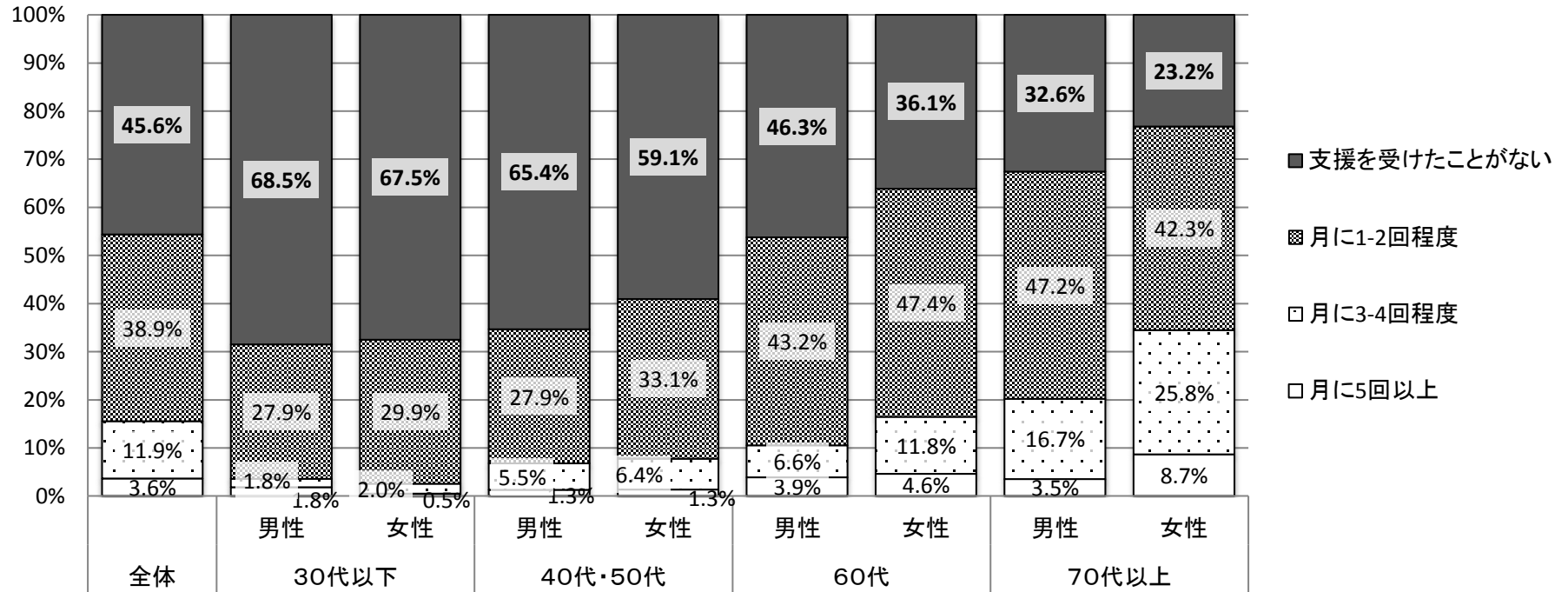
□月に5回以上 □月に3-4回程度 ▨月に1-2回程度 ■支援を受けたことがない

# ○調査結果10（コミュニティ:団地内のイベントへの参加頻度）

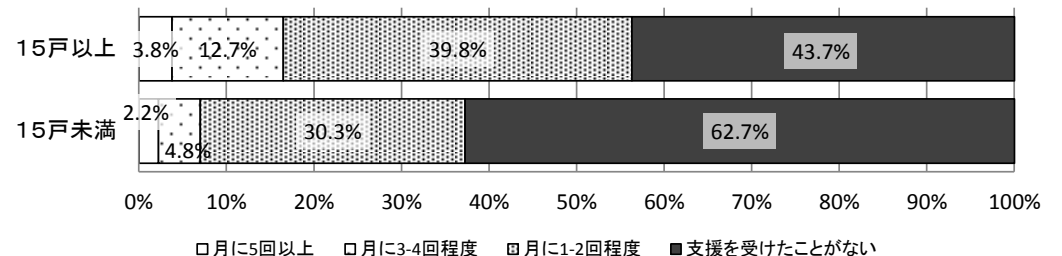
仮設団地内のイベントへの参加頻度について質問をした。

30代以下、40代・50代はイベントの参加頻度は低く、70代以上の女性は、参加頻度が高い。また全般的に女性のほうが高い参加頻度となっている。団地規模別に見ると、15世帯未満は、イベントを利用していない割合が高くなっている。

### 仮設団地内イベントへの参加頻度



### 団地内のイベント参加頻度



# ○調査結果11-①（生活満足度:生活への安心度・不安の有無）

現在、安心して生活を送ることができているかどうか質問した。

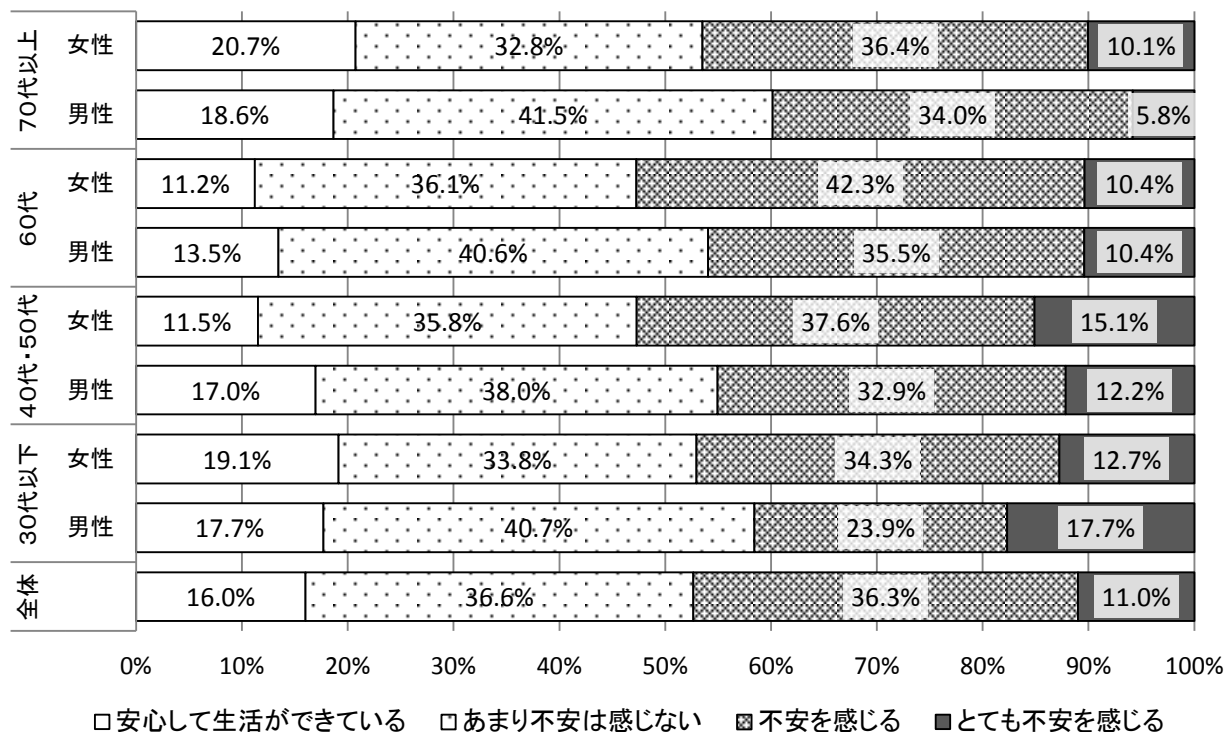
生活への安心感は、全体の47.3%が不安を感じている

（とても不安11.0% 不安を感じる36.3%）

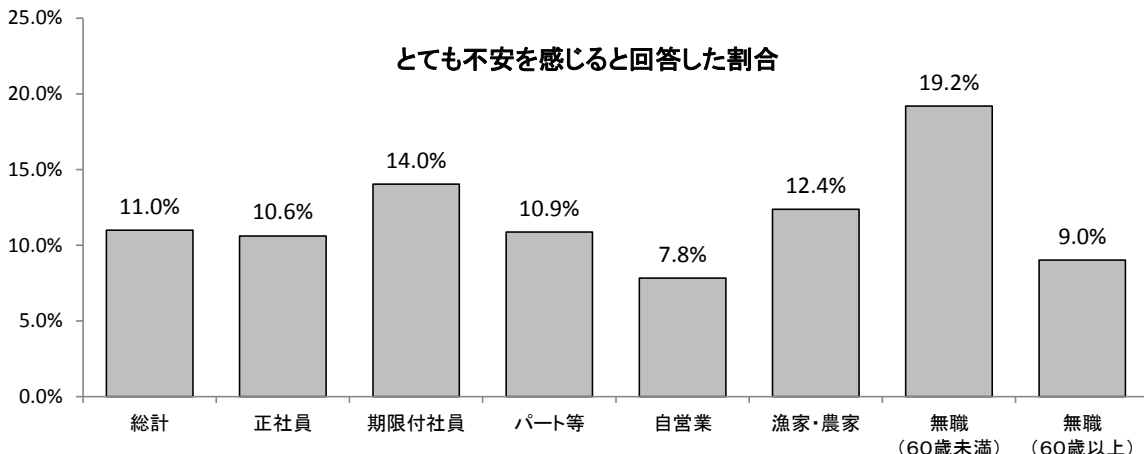
特に、30代以下の男性でとても不安を感じている割合が高く(17.7%)となっている。

また、60歳未満の無職(19.2%)、期限付き社員(14.0%)は、生活に不安を感じている割合が高くなっている。

### 生活の安心度・不安の有無



### とても不安を感じると回答した割合



## ○調査結果11－②（生活満足度：生活への安心度・不安の有無の理由）

現在、安心して生活を送ることができているかどうか質問で、その理由(自由回答)に記入した内容を、傾向ごとに整理した。

安心して理由に関しては、「人と人のつながりに感謝している」など地域における人のあたたかさに関連する回答が最も多かった。

また、不安を持つ理由に関しては、今後の生活全般に対する不安、復興計画・公営住宅など、今後の生活に関連する項目も多く見られた。

### 安心して理由

rank	安心・不安な理由	回答数	回答割合
1	地域における人のあたたかさ	113	9.8%
2	安定した生活を送っている	73	6.4%
3	物事を前向きにとらえて生活している	53	4.6%
4	安全な環境に住んでいる	28	2.4%
5	今の生活を楽しんでいる	6	0.5%
6	今後の生活に期待を持っている	6	0.5%

※回答数は、自由回答(安心・不安の理由)の記入した人数

### 不安を持つ理由

rank	安心・不安な理由	回答数	回答割合
1	今後の生活全般に対する不安	251	21.8%
2	仮設住宅の設備の進捗状況等	128	14.7%
3	復興計画・公営住宅等の進捗状況等	98	11.3%
4	災害への不安	86	9.9%
5	今の生活環境への不安	78	9.0%
6	今後の収入・所得への不安	59	6.8%
7	対人関係への不安	49	5.6%
8	安全面の不安	21	2.4%
9	防犯に対する不安	20	2.3%
10	住宅付近への動物の出現による不安	19	2.2%
11	孤独による不安感	14	1.6%
12	交通が不便	10	1.1%
13	外部からの支援への不満・要望	9	1.0%
14	健康面の不安	8	0.9%
15	今後の生活全般への不安	3	0.3%
16	話し合いの場がない	2	0.2%
17	その他	15	1.7%

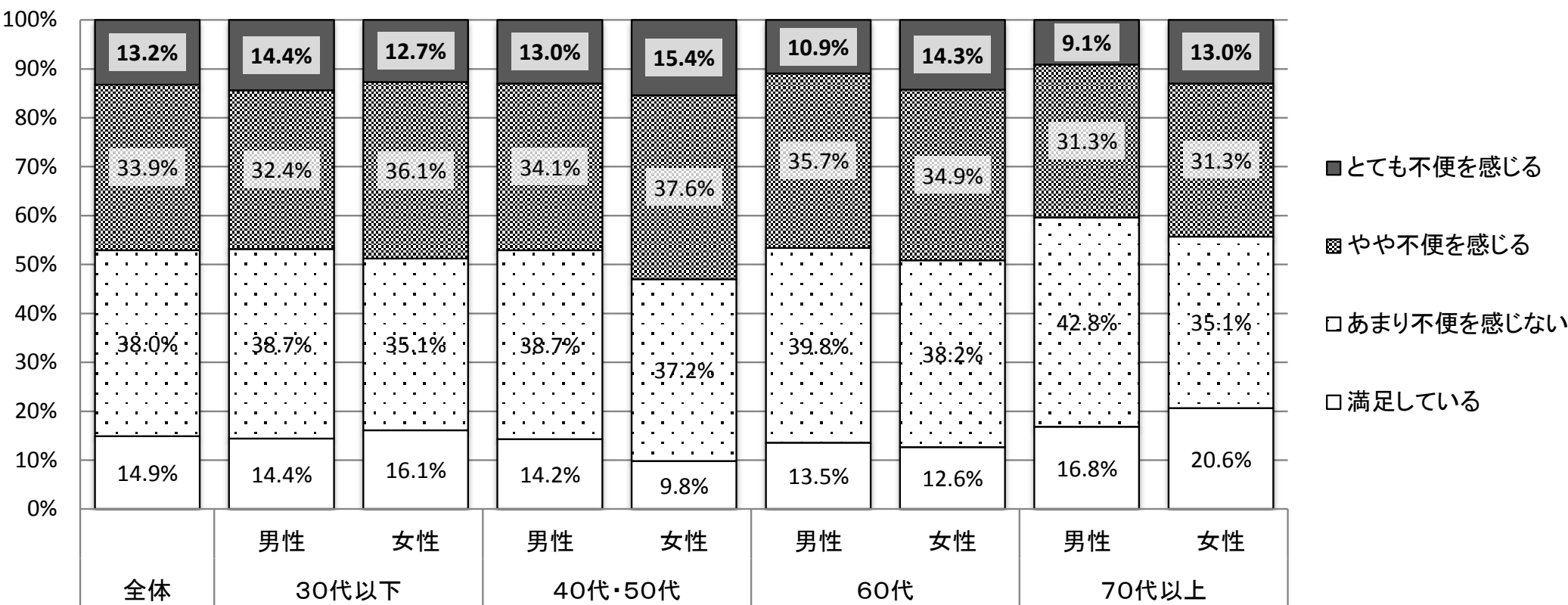


## ○調査結果12（生活満足度：仮設内の施設・環境への満足度）

仮設団地内の施設や環境への満足度に関して質問した。

全体を見ると、47.1%が不便（やや不便、とても不便）を感じており、70代以上男性は不便と感じる割合が低い。

### 仮設団地内の施設満足度



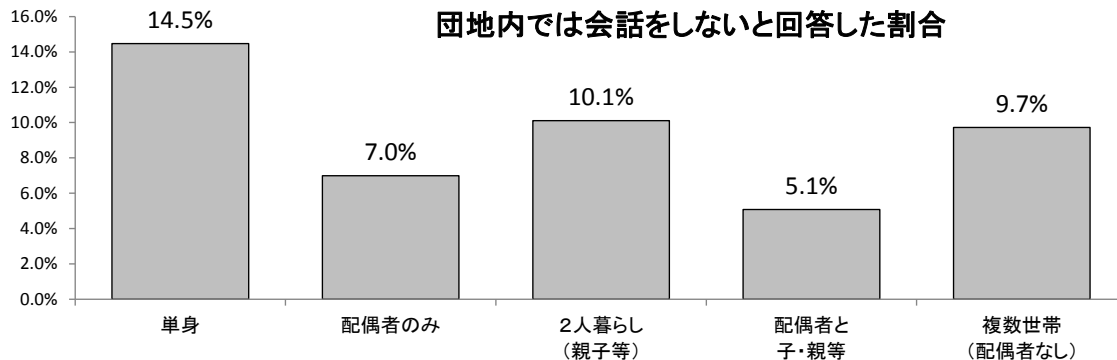
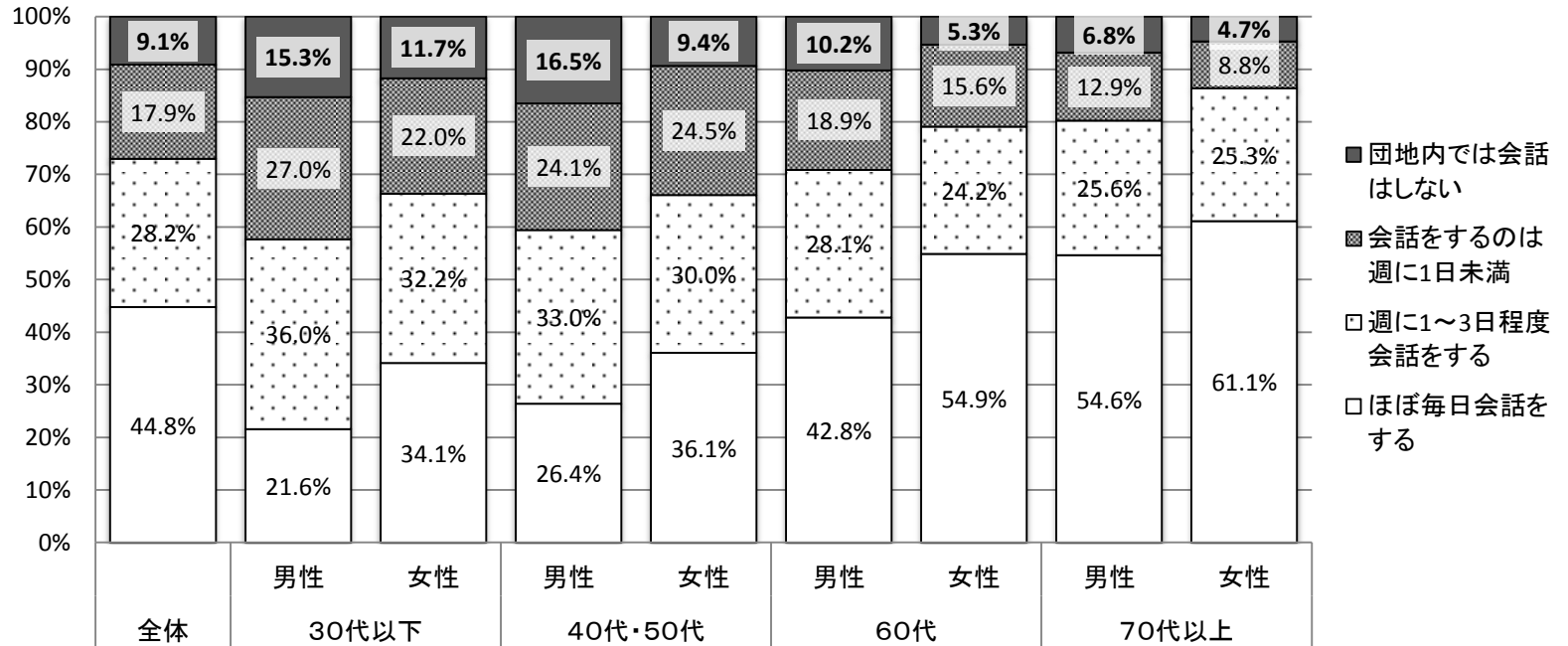
# ○調査結果13(対人関係:仮設団地内での会話頻度)

同じ団地内に住んでいる人との程度会話をするか質問した。

会話の頻度は、全体では44.8%がほぼ毎日会話をしており、その割合は、女性、または高齢であるほど割合が高くなる。また、50代以下の男性は、約15%が、団地内では会話をしないと回答をしている。

世帯構成別に見ると、単身者のうち、14.5%は団地内においても会話をしていない。

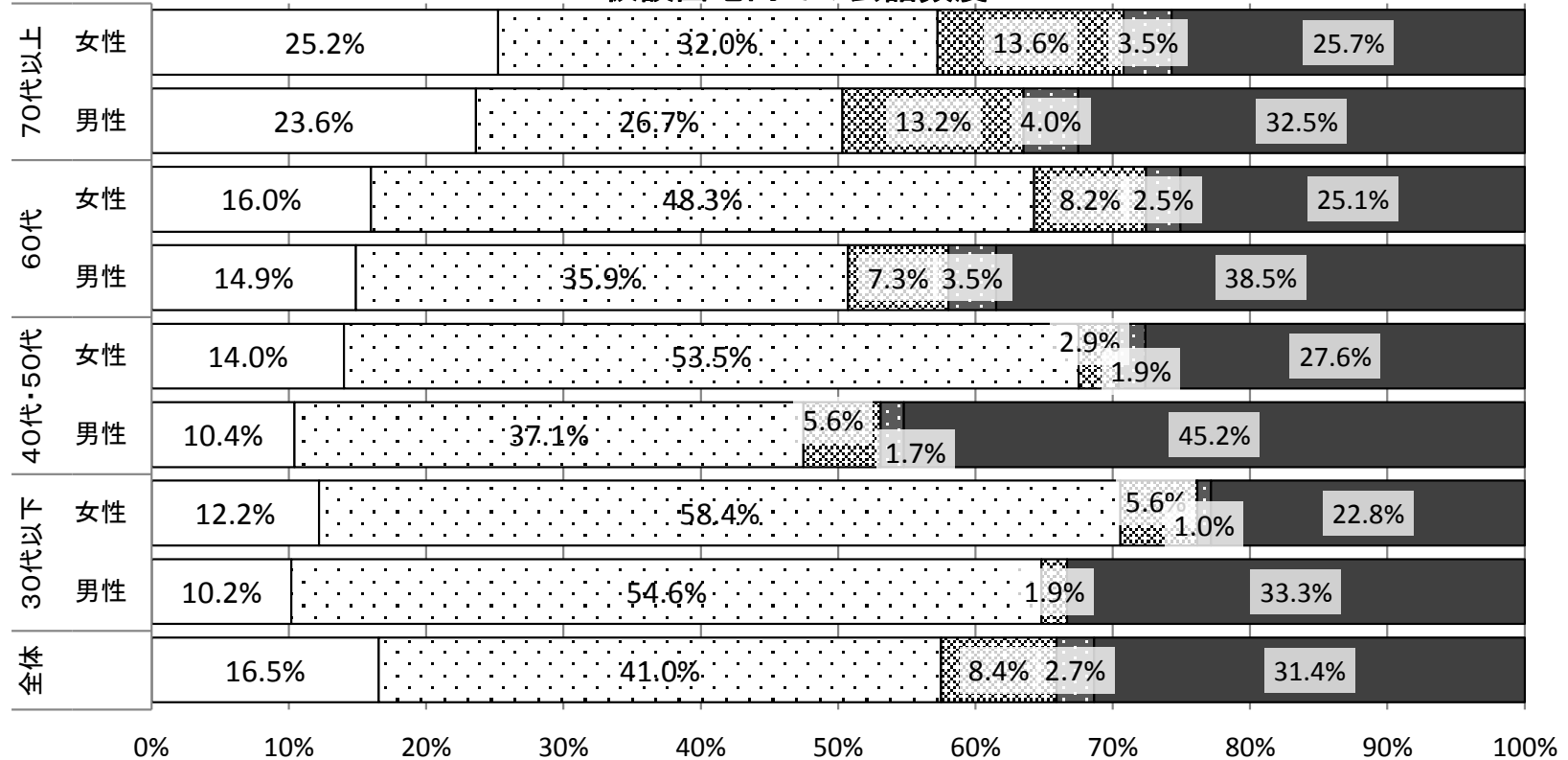
### 仮設団地内での会話の頻度



## ○調査結果14（対人関係：プライベートな悩みの相談）

家族以外で個人的なさまざまな悩みを相談できる人がいるかを質問した。プライベートな悩みの相談は、高齢であるほど、また女性の方が団地内で悩みを相談している割合が高い。また、30代以下および40代～60代の女性の約半数は他地区の住民へ相談をしている。また、男性の方が相談できる人がいない割合が高い。

仮設団地内での会話頻度



- 同じ団地内の住民にプライベートな悩みも相談している
- ▣ 同じ団地の住民には相談できないが、他地区の友人に相談している
- ▨ 同じ団地の住民には相談できないが、保健師、社会福祉協議会、支援員等に相談している
- 同じ団地の住民には相談できないが、地域外の相談窓口やボランティア等に相談をしている
- プライベートな悩みを相談できる人はいない

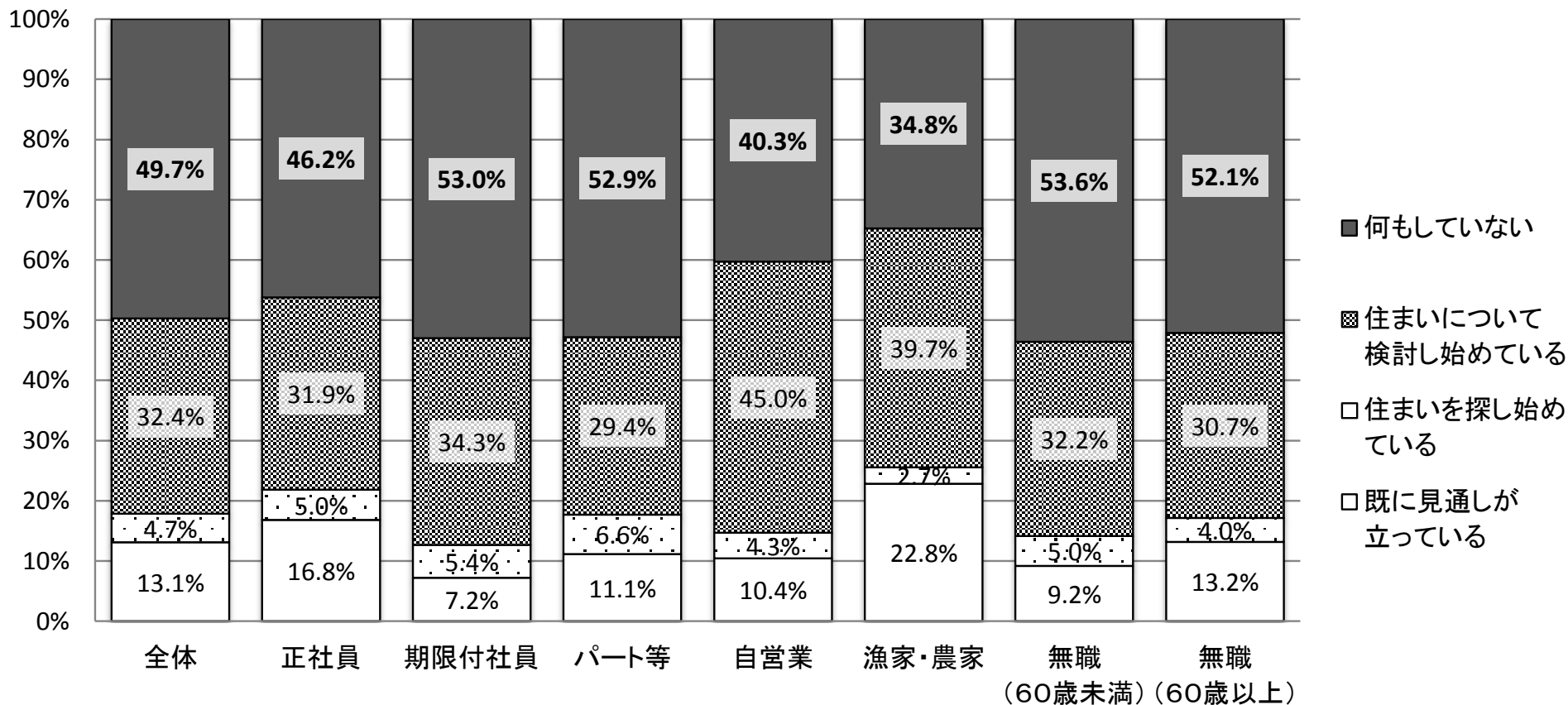
## ○調査結果15（今後の見通し:住まいの見通し）

今後の住まいの見通しについて質問をした。

住まいの見通しについては、49.7%がまだ何も活動を始められていない状況である。

職業別に見ると、既に見通しが立っている割合は、漁家・農家(22.8%)、正社員(16.8%)で高く、期限付き社員、パート、無職では、何もしていない割合が高い。

### 職業別の今後の住まいの見通し

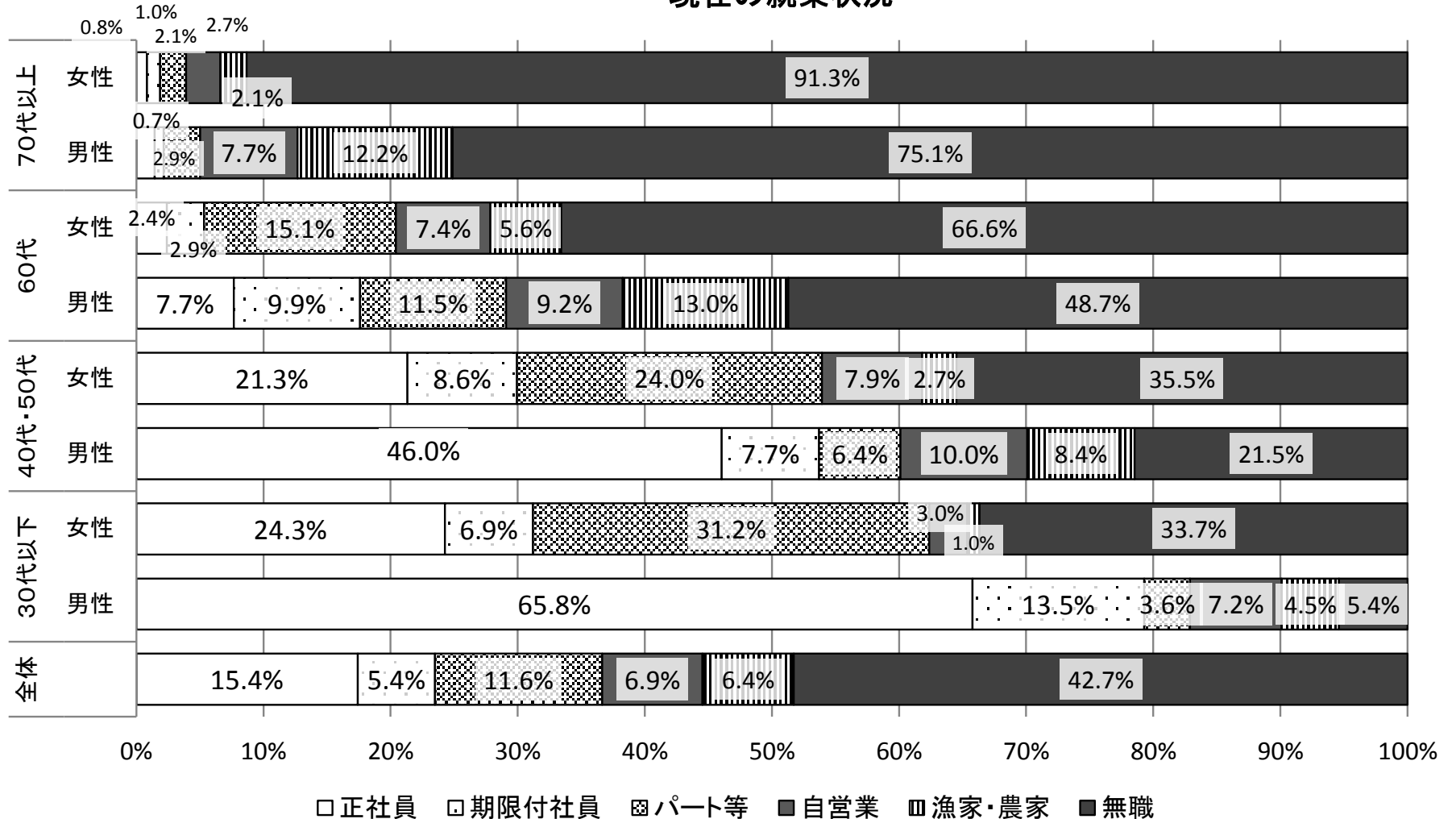


# ○調査結果16－①（今後の見通し:就業状況と今後の仕事の見通し）

現在の就業状況とについて質問した。

就業状況を見ると、正社員の割合は、30代以下男性(65.8%)、40・50代男性(46.0%)で高い。またパートは30代以下女性(31.2%)、40・50代女性(24.0%)で高くなっている。また、30代以下女性の33.7%、40代・50代女性の35.5%が無職となっている。

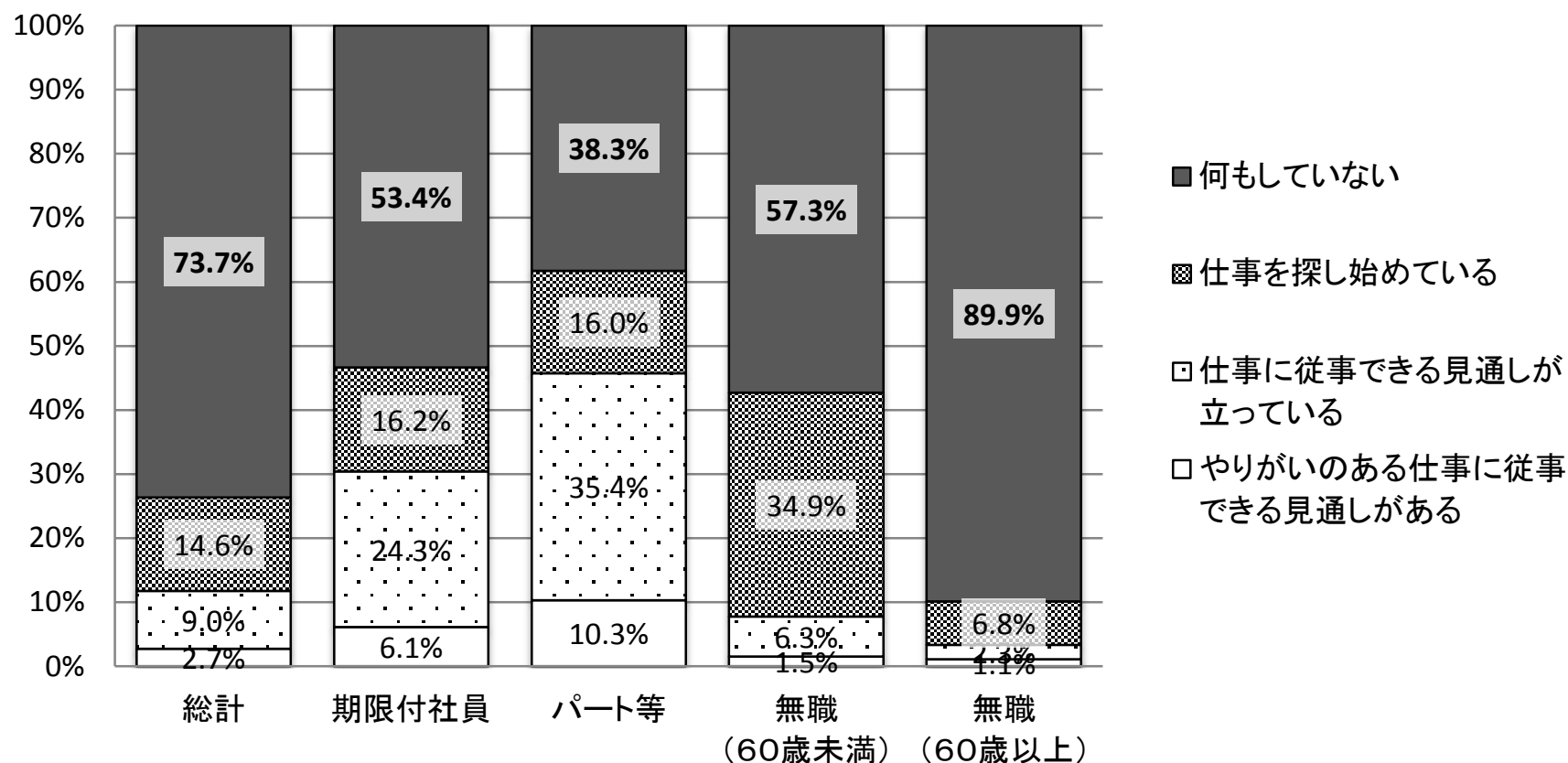
### 現在の就業状況



## ○調査結果16-②（今後の見通し:就業状況と今後の仕事の見通し）

無職、期限付き社員、パート等と回答した方へ、今後の就業の見通しについて質問を行うと、60歳未満で無職のうち、57.3%が「何もしていない」と回答している。

### 今後の就業の見通し



# ○調査結果17（今後の見通し:その市町村への継続的な居住意向）

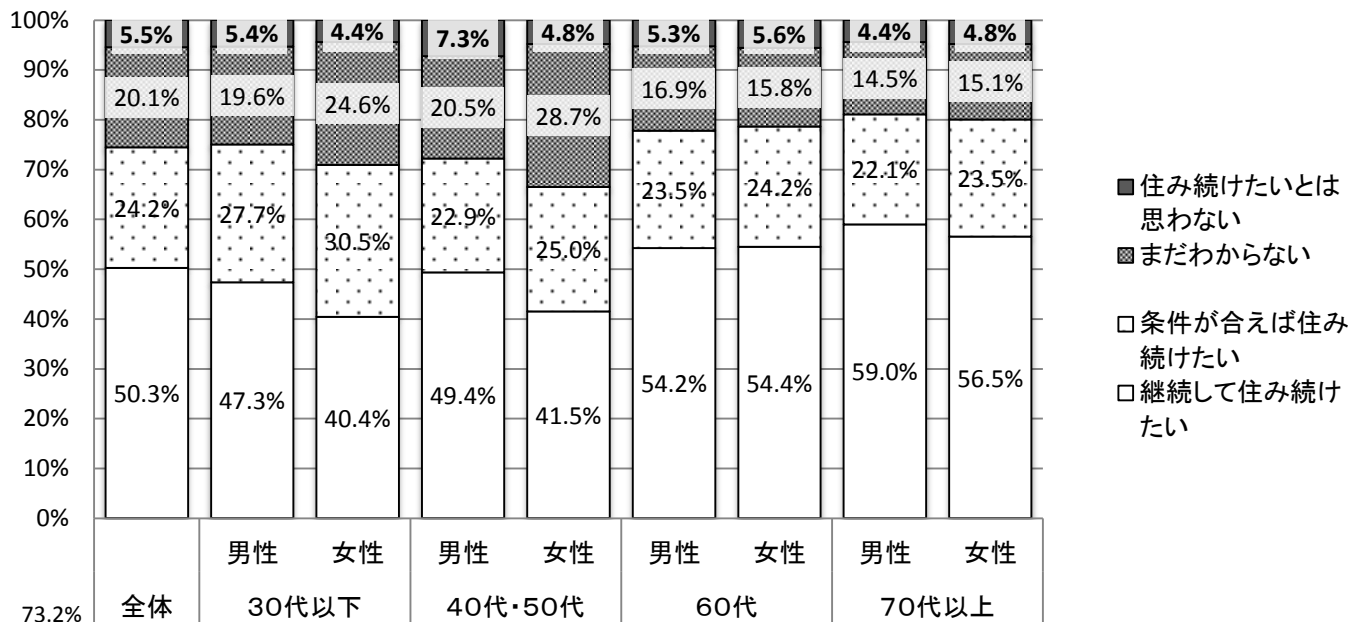
現在の居住市町村に継続して住み続けたいかの質問をした。

全体では、約半数が、継続して現在の居住市町村に住み続けたいと回答をしている。

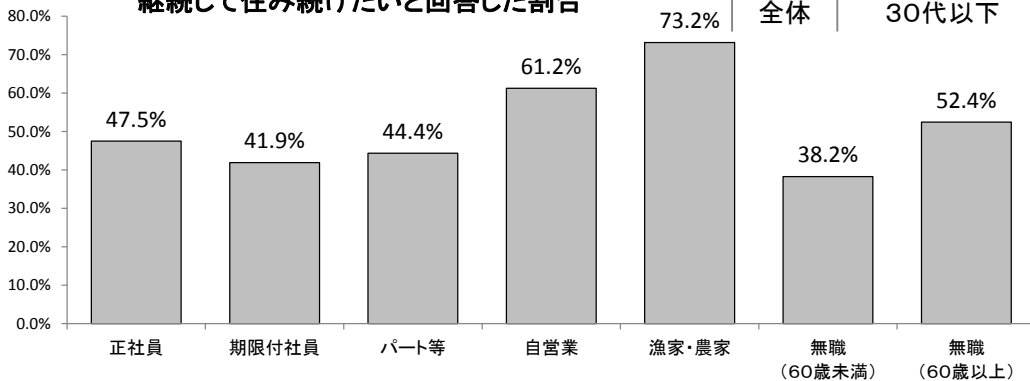
年代別においては、70代以上で継続的に住み続けたい割合が高く、また女性に比べ、男性が住み続けたい割合が高かった。また、全体の約2割は、まだわからないと回答をしている。

職業別に比較すると、漁家・農家(73.2%)、自営業(61.2%)、正社員(47.5%)の順で高い。

当該市町村への継続的な居住意向



継続して住み続けたいと回答した割合



## ○調査結果18（今後の見通し：居住市町村への居住意向と現在の生活満足度との関連）

継続して住み続けたいと回答した者の傾向をみると、コミュニティの関連指標である、集会所・談話室の利用頻度や団地内の会話頻度、生活安心度も高い傾向がある。

集会所利用頻度	総計		継続して住み続けたい		条件が合えば住み続けたい		まだわからない		住み続けたいとは思わない	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
月に6回以上	222	6.8%	117	7.5%	41	5.4%	42	6.8%	9	5.4%
月に3～5回程度	452	13.8%	243	15.7%	95	12.6%	75	12.1%	15	9.0%
月に1～2回程度	1020	31.1%	502	32.3%	239	31.7%	167	26.9%	42	25.1%
利用していない	1581	48.3%	690	44.5%	378	50.2%	336	54.2%	101	60.5%
小計	3275		1552		753		620		167	

団地内の会話頻度	総計		継続して住み続けたい		条件が合えば住み続けたい		まだわからない		住み続けたいとは思わない	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
ほぼ毎日会話をする	1437	44.8%	804	51.4%	302	39.8%	230	36.6%	59	34.5%
週に1～3日程度会話をする	903	28.2%	429	27.4%	228	30.0%	174	27.7%	46	26.9%
会話をするのは週に1日未満	573	17.9%	227	14.5%	161	21.2%	148	23.5%	32	18.7%
団地内では会話はしない	293	9.1%	104	6.6%	68	9.0%	77	12.2%	34	19.9%
小計	3206		1564		759		629		171	

生活安心度	総計		継続して住み続けたい		条件が合えば住み続けたい		まだわからない		住み続けたいとは思わない	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
安心して生活ができている	527	16.0%	308	19.6%	90	12.0%	69	11.1%	21	12.1%
あまり不安は感じない	1206	36.6%	626	39.9%	273	36.5%	203	32.6%	48	27.7%
不安を感じる	1196	36.3%	516	32.9%	286	38.2%	266	42.8%	62	35.8%
とても不安を感じる	362	11.0%	118	7.5%	99	13.2%	84	13.5%	42	24.3%
小計	3291		1568		748		622		173	